青山学院創立150周年記念式典に出席してきました！！

…青山学院と遺愛との深いつながり…

11月16日(土) 14時より青山学院講堂で、学校法人青山学院創立150周年記念礼拝と式典が開催されたので出席してきました。

青山学院は遺愛学院と共に米国メソジスト監督教会から派遣された宣教師により設立された学校で、遺愛の創基に関わったハリス夫妻は晩年、青山学院の敷地内に暮らしていました。遺愛で5年間勤めていたA・B・スプローズ宣教師は、その後、青山女学院院長に就任しました。また、遺愛の5代目チニー校長は、遺愛に来る前は青山女学院に勤務していましたし、小畑信愛氏は青山学院教授から遺愛6代目校長となりました。青山学院第6代院長の阿部義宗氏・第7代院長の笹森順造氏は、遺愛学院の理事長（阿部氏は2・4代目、笹森氏は3代目）を務めていました。このように人事面でも遺愛学院と青山学院は歴史的に深い関係がありました。

最近では、2022年3月28日に、青山学院と遺愛学院との間で、「教育提携に関する協定」を締結しました。11月14日(木) に遺愛中学東京修学旅行で、青山学院に訪問したのは、協定の趣旨に基づいての交流でした。

16日の式典当日は第一部として記念礼拝が、学院宗教部長の伊藤　悟氏の司式で執り行われました。オール青山ハンドベル・クワイヤの前奏、オール青山聖歌隊の奉唱があり、院長の山本与志春氏がメッセージを語りました。

第二部の記念式典は青山学院管弦楽団の演奏で始まり、理事長の堀田宣彌氏のご挨拶、院長の山本与志春氏から**「AOYAMA VISION 160」が発表**されました。

青山学院10年後の未来構想である**「AOYAMA VISION 160」**で、とても興味深かったのは、**「サーバント・リーダー」を育てたい**ということを強調していたことです。この「サーバント・リーダー」というのは、青山学院教育方針から出てきているのですが、「**青山学院の教育は　キリスト教信仰**にもとづく教育を目指し　神の前に真実に生き　真理を謙虚に追求し　愛と**奉**

仕の精神をもってすべての人と社会に対する責任を進んで果たす人間の形成を目的とする。」と記されているのに対して、遺愛の教育方針は「**遺愛学院の教育は　キリスト教の信仰**に基づき、神の前に誠実に生き、犠牲と**奉仕の精神**によって　すべての人に仕え、神と人とに愛せられる　人間の育成を目的とする。」と非常に似ています。共にルーツが米国メソジスト監督教会から始まっているからだと思われます。

「サーバント・リーダー」は、従来の日本企業に多い、部下に対して指示・命令中心の「支配型リーダー」と異なり、部下と信頼関係を築き、共感し、支え導く、ＶＵＣＡの時代（先の見えない時代）に求められるリーダーだと言われます。立場を振りかざして指示や命令をするのではなく、「奉仕」の精神をもって部下に接し、信頼関係を重視し、部下の声に耳を傾けながら目標やビジョンを達成していくリーダーです。「サーバント」とは英語で「使用人」「召使」「奉仕者」という意味を持ちますが、「部下の言いなりになる」リーダーではありません。青山学院は「奉仕の精神」を育て、新しい時代を創造する「サーバント・リーダー」を育てたいという強い願いを持っています。具体的に4つの教育要素「キリスト教教育」「国際教育」「先端科学教育」「想像＆創造教育」により育てようと考えています。

「信仰・犠牲・奉仕」の遺愛からも、「サーバント・リーダー」がこれから間違いなく多く育っていくと確信しています。

＊サーバント・リーダーについては、アメリカのロバート・K・グリーンリーフがその著書『サーバント・リーダーシップ』（1977年）で提唱しました。

2024年11月19日（火）